

国語に関する世論調査の日韓比較

—敬語に対するイメージを中心に—

梶原雄*

(e-mail : sk113725@mail.doshisha.ac.jp)

<목 차>

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1.はじめに | |
| 2.先行研究 | |
| 3. 日韓の国語に関する世論調査について | |
| 3.1. 日本の「国語に関する世論調査」 | |
| 3.2. 韓国の「国民の言語意識調査」 | |
| 4. 設問の比較と考察 | |
| 4.1. 比較対象となる設問の選択 | |
| 4.2. 比較と考察 | |
| 4.2.1. 「『国語』に対する関心度」と敬語との関係 | |
| 4.2.2. 「言葉の美しさ」と敬語との関係 | |
| 4.2.3. 「正しい言葉遣い」と敬語との関係 | |
| 4.2.4. その他の設問に関する考察 | |
| 5. おわりに | |

キーワード：国語(national language), 世論調査(Public Opinion Poll), 敬語(honorific language), 国語に対する関心度(degree of interest in the 'national language'), 言葉の美しさ(elegance of words), 正しい言葉遣い(appropriate word use)

1.はじめに

日本の「国語に関する世論調査¹⁾」は、国語に関する意識や理解の現状について調査し、国民の国語に関する興味関心を喚起するために、平成7年度(1995年)から毎年実施されている。その中で、敬語や慣用句、熟語などの誤用が多数派になっていくことを捉えた調査結果は、日本語の「乱れ」や「変化」の例としてメディアなどで頻繁に取り上げられてきた。韓国においても、国立国語院²⁾が2005年に初めて「国民の言語意識調査³⁾」を実施して以

* 同志社大学, 嘱託講師, 日本語教育学, 韓国語教育学

1) 文化庁が実際に行った世論調査を指す時は、鍵括弧付きで表記する。

2) 국립국어원(国立国語院)は、1991年に設立された국립국어연구소(国立国語研究所)を前身とし、国語の発展と国民の言語生活向上のための事業推進、及び研究活動を管轄する国家機関である。

3) 原文は「국민의 언어 의식 조사」

来、5年毎に行われた調査は2015年で3回目となった。本調査は韓国における「国語」の使用に関して幅広い分野から設問が構成されており、過去3回の調査では同一の設問が多く使われているため、韓国社会の「国語」に対する意識の変化を通時的に見ることができる。

このように日本の「国語に関する世論調査」と韓国の「国民の言語意識調査」は、日韓両国において国語に関する大規模な調査の一つであり、各言語の特徴やそれらを取り巻く環境などを考慮して独自に作成されたものであるが、両調査の設問を見ると類似する項目も見受けられる。とりわけ、敬語については日韓両言語において発達していると言われており、複雑な体系はもとより使い方を誤れば対人関係に影響を及ぼすため、日韓両国においては社会的に関心が高い項目の一つであると言える。

そこで本稿では、日本の「国語に関する世論調査」と韓国の「国民の言語意識調査」の結果をもとに、日韓両国における敬語の社会的な認識を比較し、その特徴を明らかにする。

2. 先行研究

日本語と韓国語の敬語に関する対照研究については、これまで数多くの研究がなされてきた(李他, 2004、油谷, 2006、韓他, 2009、野間, 2012)。本稿では、主として日韓両国の敬語に対するイメージの変遷について考察するため、日本の「国語に関する世論調査」及び韓国の「国民の言語意識調査」を用いた先行研究に絞って取り上げることとする。

まず、日本の「国語に関する世論調査」について、この調査結果を用いて日本語の分析を行った研究は少なくない。ただし、多くの研究は「国語に関する世論調査」で取り上げられた一部の項目に焦点を当てて分析したものである(洞沢, 2011、原田, 2013)。また、中村(2013)では、日本で日本語を学ぶ外国人留学生の言語意識・日本語意識を探るべく「国語に関する世論調査」の調査項目を選抜し現状調査を行った。他方、「国語に関する世論調査」の設問項目を分析した研究として이수정(2018)は、平成7年度(1995年)から平成28年度(2018年)にかけて実施された「国語に関する世論調査」の設問の内容と件数を分析し、時代の経過において日本語に影響を与える要素を明らかにした。

一方、韓国の「国民の言語意識調査」について민형식(2002)は、国語意識調査の必要性を論じ、類似する調査事例として日本の「国語に関する世論調査」分析し、その結果をもとに具体的な方法論を提示している。さらに、홍민표(2004)でも、日本の「国語に関する世論調査」と社会言語学的な背景を明らかにし、調査の方法や質問項目等の具体的な方

法を提示している。結果として、この研究が2005年に初めて実施された「国民の言語意識調査」の基礎となったと言えよう。さらに、過去実施された3回分の調査結果を総合的に分析及び考察した研究としては박지수(2016)が挙げられる。

これまで、日韓両国における国語に関する世論調査に関する先行研究について調べた結果、日韓両国の調査結果を比較及び分析した研究は、管見では見当たらなかった。

3. 日韓の国語に関する世論調査について

まず、本稿で比較対象となる日本の「国語に関する世論調査」及び韓国の「国民の言語意識調査」の2種類の世論調査について、各調査の概要について見ていくこととする。

3.1. 日本の「国語に関する世論調査」

前述のとおり、文化庁は国語施策の参考とするために、平成7年度(1995年)から毎年「国語に関する世論調査」を実施しているが、この調査は、「日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起すること」を目的としている。調査方法は、全国の16歳以上の男女3,000～3500人程度を調査対象とした個別面接調査で、有効回答数は約2,000人、有効回答率は55%～70%程度である⁴⁾。

続いて、調査内容について어수정(2018:183-184)によると、平成7年度から平成28年度に実施された「国語に関する世論調査」で取り上げられた設問は総466項目であり、調査票は毎年20項目前後の設問で構成されていたという。さらに、設問の内容を整理すると、「国語に関する意識」、「日常生活の言葉遣い」、「コミュニケーション」、「日本語と外国人」、「情報化と読書」の5つに分けられ、5つのテーマの中で最も大きな割合を占めているのは、「日常生活の言葉遣い」に関する設問で7割を占めていたという。ただし、日本の調査は、어수정(2018:198)で指摘されているように、「今後の国語施策の立案する際に判断資料となるものであり、設問の選択肢となる項目は施策立案者の問題意識を反映するもの」であるため、過去24回実施されている割には、重複する設問が少なく、同一の設問として取り上げられる場合でもその時期が規則的ではない。

4) 平成21年度の調査のみ調査対象者が6,730名、有効回答数は4,108人(61.0%)であった。

3.2. 韓国の「国民の言語意識調査」

韓国の「国民の言語意識調査」は、国立国語院が2005年に初めて実施したもので、全国の20歳以上の男女約4,000～5,000人⁵⁾を対象とした戸別訪問調査である。調査は5年毎に行われ、これまでに3回の調査が行われた。この調査では、①国語施策に必要な国民の言語使用の実態を調査する、②社会や言語使用環境の変化に伴う言語意識の推移を把握する、③国民の言語生活と密接な国語施策を立案し、改善案に反映させるとともに、国民向けに広報する、の3つの目的が掲げられている。調査の設問構成については、表1の「『国民の言語意識調査』の調査区分」のとおりである。

〈表1〉「国民の言語意識調査」の調査区分

2005	2010	2015
I. 국어에 대한 관심과 문제의식 (国語に対する関心と問題意識)	I. 국어에 대한 관심과 문제의식 (国語に対する関心と問題意識)	I. 국어에 대한 관심과 문제의식 (国語に対する関心と問題意識)
II. 언어 행동과 언어 사용 (言語行動と言語使用)	II. 언어 사용 (言語使用)	II. 언어 사용 (言語使用)
①언어 행동 (言語行動)	①언어 사용 (言語使用)	①언어 사용 (言語使用)
②경어 사용 (敬語使用)	②경어 (敬語)	②높임말 (敬語)
③욕설·비속어 사용 (罵倒語と卑俗語の使用)	③비속어 (卑俗語)	③욕설 및 비속어 (罵倒語と卑俗語)
④표준어와 방언 사용 (標準語と方言使用)	④표준어와 방언 (標準語と方言)	④표준어와 지역 방언 (標準語と地域方言)
⑤외래어·외국어와 순화어의 사용 (外来語・外国語と醇化語 ⁶⁾ の使用)	⑤외래어·외국어와 순화어 (外来語・外国語と醇化語)	⑤외래어·외국어와 순화어 (外来語・外国語と醇化語)
⑥대중매체의 언어 (大衆媒体の言語)	⑥대중매체의 언어 (大衆媒体の言語)	⑥대중매체의 언어 (大衆媒体の言語)
⑦외국문자의 사용 (外国の文字使用)	⑦외국문자 사용 (外国の文字使用)	⑦외국문자 사용 (外国の文字使用)
III. 언어 교육과 언어 정책 (言語教育と言語政策)	III. 언어 교육과 언어 정책 (言語教育と言語政策)	III. 언어 교육과 언어 정책 (言語教育と言語政策)
①국어 능력 및 국어 교육 (国語能力及び国語教育)	①국어 교육 (国語教育)	①국어 교육 (国語教育)
②한자 교육 (漢字教育)	②한자 교육 (漢字教育)	②한자 교육 (漢字教育)
③외국어 교육 (外国語教育)	③외국어 교육 (外国語教育)	③외국어 교육 (外国語教育)
④어문 규범 (語文規範 ⁷⁾)	④어문 규범 (語文規範)	④어문 규범 (語文規範)
⑤언어 정책 (言語政策)	⑤언어 정책 (言語政策)	⑤사전 이용 (辭書利用)
		⑥기관 인지도 및 이용 의향 (機関認知度及び利用の意向)
		⑦남북한 언어통일 (韓国・北朝鮮の言語統一)

5) 有効標本数は、4,055(2005年)、5,000(2010年)、5,000(2015年)であった。

6) 難し過ぎる言葉や規範を逸脱した言葉、外来語などを理解しやすい言葉、特に固有語に言い換える行為、またその言葉を指す。

7) 韓国語の正書法を指す。

調査区分は大きく3つに分けられており、2015年の調査では「Ⅰ.국어에 대한 관심과 문제 의식(国語に対する関心と問題意識)」、「Ⅱ.언어 사용(言語使用)」、「Ⅲ.언어 교육과 언어 정책(言語教育と言語政策)」であった。さらに、下部の区分に関して過去3回分を比較したところ、大きな変更点は認められなかった⁸⁾。なお、2015年の「Ⅲ.언어 교육과 언어 정책(言語教育と言語政策)」において区分が増加しているのは、2005年及び2010年の「⑤언어 정책(言語政策)」が細分化されたためである。

4. 設問の比較と考察

日韓両国の国語に関する世論調査を比較するにあたって、これまで実施された日韓の各調査から敬語に関してどのような設問が出されたか分析を行う。その後、韓国の調査で採用されている設問に沿って、類似する日本の設問を抽出し比較と考察を行う。

4.1. 比較対象となる設問の選択

表2は、「日韓両国の世論調査における設問対照表①」であり、これまで行われた日韓両国の世論調査の設問を比較し、類似性があり、かつ、過去の調査と比較できる設問を一覧表にしたものである。

〈表2〉日韓両国の世論調査における設問対照表①

	韓国「2015년 국민의 언어 의식 조사」 (2015年国民の言語意識調査)	日本「国語に関する世論調査」
①	問 귀하께서는 평소 언어 사용이나 말하는 법 혹은 문장 쓰는 법 등 국어와 국어 사용에 관하여 얼마나 관심을 가지고 있습니까? (普段、言語の使用や話し方、あるいは文章の書き方等で国語や国語の使用に関してどのくらい関心を持っていますか。)	問 国語について、どの程度関心があるか。 (平成12、29、30年度)
②	問 귀하께서는 국어의 어떠한 점에 관심을 가지고 있습니까? ㉠언어 예절 (どのような点で関心を持っていますか。小問11項目中、「㉠言語礼節」に関して)	問 どのような点に関心があるか。 (平成15、18、22年度)
③	問 다음은 평소 귀하께서 가지고 계신 우리말에 대한 인상을 묻는 질문입니다. 다음 내용들에 대해 어떻게 생각하시는지 말씀해 주십시오. ㉡아름답다 (普段、あなたが抱えている韓国語のイメージについて教えてください。小問7項目中、「㉡美しい」に関して)	問 「美しい日本語」があると思うか、そうは思わないか。 (平成13、20、27年度)

8) 表1内の色付き部分が前回調査からの変更箇所を表す。

④	問 귀하께서는 평소 어떤 말이 가장 아름다운 우리말이라고 생각하십니까? (普段どのような言葉が最も美しい韓国語だと考えますか。)	問 「美しい日本語」とはどのような言葉か。 (平成13、20、27年度)
⑤	問 우리 국민들이 국어를 바르게 사용하고 있지 못하다는 의견이 있습니다. 이러한 의견에 대해 어떻게 생각하십니까? (私たち国民が国語を正しく使えていないという意見がありますが、あなたはどのように考えますか。)	問 今の国語は乱れていると思うか。 (平成11、14、19、26年度)
⑥	問 우리 국민들이 국어를 바르게 사용하지 못하는 모습 중 중요한 순서대로 두 가지를 골라 주십시오. (どのような点で、私たち国民が国語を正しく使えていないと思いますか。そう思う順に2つ選んでください。)	問 どのような点で乱れていると思うか。 (平成14、20年度)

韓国の「2015年国民の言語意識調査」の分野に出てくる設問に沿って、日本の「国語に関する世論調査」の設問を照らし合わせると、比較可能な設問が「Ⅰ.国語に対する関心と問題意識」では4問、「Ⅱ.言語使用」の小分類である「言語使用」では2問、合計6問あった。表2の①および②では「国語」に対する関心の有無と、その具体的な分野を尋ねている。また、③および④では韓国語及び日本語の「美しさ」に対する評価と、具体的な評価基準について尋ねている。⑤および⑥では、韓国では「国語を正しく使えていない」、日本では「乱れ」と表現されているが、日韓両国とも「気になるかどうか」という観点から、その具体的な例について尋ねている。

また、調査票には、表2に挙げた設問以外にも敬語に関連する設問があった。表3は「日韓両国の世論調査における設問対照表②」で、表2で取り上げなかった敬語に関する設問をまとめたものである。

〈表3〉日韓両国の世論調査における設問対照表②

韓国「2015년 국민의 언어 의식 조사9)」 (2015年国民の言語意識調査)	日本「国語に関する世論調査」
問 次の文は私たちの社会の敬語使用に対する主張です。あなたはどのように考えますか。 ㉔ 한국은 예의를 중요하게 생각하는 나라이므로 앞으로도 높임말은 반드시 유지, 존속되어야 한다 (韓国は礼儀を重要視する国なので今後も敬語は必ず維持、存続させるべきだ) ㉕ 높임말은 상하 관계를 강요하는 불평등한 요소가 많으므로 점차 없여져야 한다 (敬語は上下関係を強要する不平等な要素が多いので、少しずつなくなっていくべきだ) ㉖ 높임말은 너무 복잡하기 때문에 간소화할 필요가 있다 (敬語は非常に複雑なので、簡素にする必要がある) ㉗ 인간은 모두 평등하기 때문에 손윗사람도 손아랫사람에게 높임말을 사용해야 한다 (人は皆平等なので目上の人も目下の人に敬語を使わなければならない) ㉘ 남녀평등의 시대이지만, 여성의 말은 남성의 말보다 예의 바른 것이 좋다	問 敬語はどうあるべきか。 (平成9、16、27年度) 問 「今後とも敬語は必要だと思うか」 (平成15、25年度) 問 敬語を使うことが、人間関係を作っていくのに、かえってマイナスになると感じることがあるか。 (平成28年度) 問 敬語を使うことが、人間関係を作っていくのに、マイナスと感じるのはどのようなときか。 (平成28年度) 問 これからの時代、特に必要だと思う言葉

(男女平等の時代だが、女性の言葉は男性の言葉より礼儀正しいが良い) ㉔ 높임말은 사람과 사람의 관계를 부드럽게 해준다 (敬語は人と人との関係を柔らかくしてくれる) ㉕ 높임말은 상대방을 존경하는 느낌을 나타낼 수 있다 (敬語は相手を尊敬する気持ちを表すことができる) ㉖ 높임말은 서먹서먹한 느낌이 들기 때문에 필요 없다 (敬語はよそよそしい感じがするので必要ない) ㉗ 높임말은 현대 사회의 감각에 맞지 않기 때문에 필요 없다 (敬語は現代社会の感覚に合わないので必要ない) ㉘ 높임말은 국제화 시대에 맞지 않기 때문에 필요 없다 (敬語は国際化の時代に合わないので必要ない)	にかかわる知識や能力は何か。 (平成14、28年度)
--	---------------------------------------

過去3回の韓国の調査票には「Ⅱ.言語使用」の区分に「敬語」の設問があり、その中に㉔から㉘の合計10の質問があった。一方、これまでの日本の調査票を見ると、敬語に関する設問の出題は不定期で行われており、頻度も少なかった。

4.2. 比較と考察

本節では、表2に挙げた日韓両国の国語に関する世論調査の設問の集計結果に基づいて、①「『国語』に対する関心度」と敬語との関係、②「言葉の美しさ」と敬語との関係、③「正しい言葉遣い」と敬語との関係、の3つの観点から考察を行う。また、表3に挙げた設問の集計結果についても、総合的に比較しその特徴を考察する。

4.2.1. 「『国語』に対する関心度」と敬語との関係

図1は、「日韓両国の『国語』に対する関心度」を年別に比較したものである。



〈図1〉日韓両国の「国語」に対する関心度

9) 「국민의 언어 의식 조사」(国民の言語意識調査)において、設問の語句に変更があったのは以下の通りである。

㉔ 「동방예의지국」(2005, 2010) → 「예의를 중요하게 생각하는 나라이므로」(2015), ㉕, ㉖, ㉗, ㉘, ㉙, ㉚, ㉛, ㉜ 「경어」(2005, 2010) → 「높임말」(2015)

韓国の「国語」に関する関心度の推移を見ると、「関心がある」(「非常に関心がある」と「関心がある」の合計)と回答した人は、2005年は60.9%だったが2010年には一旦45.6%に減少し、2015年には53.0%に回復していることがわかる。このような2010年前後における国語に対する関心度の低下について국립국어원(2015)は、「英語ブーム(영어광풍)」の影響であると分析している。一方、日本の「国語」に関する関心度の推移をみると、「関心がある」(「非常に関心がある」または「関心がある」)と回答した人は、2000年から2018年にかけて75%前後で推移しており、大幅な増減も見られないことから、普段から「国語」に関して高い関心を持っている人が多いことがわかる。

さらに、日韓両国において「国語」に関心があると答えた人を対象に、どのような点で関心があるか尋ねた。表4は、韓国の調査における「国語の関心分野の上位5位の項目」を示している。

〈表4〉国語の関心分野の上位5位の項目(韓国)

	2005	2010	2015
언어 예절 (言語礼節)	36.6%	56.8%	70.2%
말하기 (話すこと)	63.9%	57.1%	69.0%
맞춤법/발음 (正書法と発音)	19.9%	43.1%	55.2%
글쓰기 (書くこと)	36.5%	49.1%	52.1%
표준어/지역방언 (標準語と方言)	16.5%	36.1%	36.8%

敬語を含む「言語礼節」の項目に関して、36.6%(2005年)で2位、56.8%(2010年)で2位、70.2%(2015年)で1位となり、年々関心が高まっていることがわかる¹⁰⁾。その理由として、박지수(2016:39)では、2011年に国立国語院から発行された『標準言語礼節¹¹⁾』と関連性があると述べている。この『標準言語礼節』は、1992年に発行された『標準話法解説¹²⁾』を現在における国語の使用環境に則して改められたもので、その普及や調査過程において「言語礼節」に対して関心が高まったのではないかと分析している。

一方、表5は日本の調査における「国語の関心分野の上位5位の項目」を示している。

10) 2005年の調査は国語に関する分野が提示され、そこから関心のある分野を2つ選択する方式だったが、2010年、2015年の調査では「言語礼節」への関心の有無を尋ねる方式に変更された。

11) 原文は『표준 언어 예절』

12) 原文は『표준 화법 해설』

〈表5〉 国語の関心分野の上位5位の項目(日本)

	2003	2006	2010
日常の言葉遣いや話し方	72.1%	73.7%	72.8%
敬語の使い方	58.8%	65.5%	65.5%
文字や表記の仕方、あるいは文章の書き方	22.4%	23.3%	24.7%
言葉の意味・由来やその歴史	21.0%	22.9%	25.4%
新語・流行語	23.0%	17.6%	17.9%

日本ではこれまで2003年、2006年、2010年の過去3回、国語の関心分野を尋ねる設問があったが、いずれの年も最も関心が高い分野は「日常の言葉遣いや話し方」で70%を超えていた。次いで「敬語の使い方」で60%前後で推移していることがわかる¹³⁾。以上より、国語に対する関心度は韓国も日本も比較的高く、日韓両国において「敬語(言語礼節)」が関心分野の上位に入っていることから、「敬語(言語礼節)」への関心が国語全体への関心度向上に寄与していると言える。

4.2.2. 「言葉の美しさ」と敬語との関係

図2は、「『美しい韓国語』及び『美しい日本語』に対する意識」を年別に比較したものである。



〈図2〉 「美しい韓国語」及び「美しい日本語」に対する意識

韓国における国語、即ち韓国語に対して「美しい」イメージを持っているか尋ねたところ、「そう思う」(「非常にそう思う」と「そう思う」の合計)と回答した人は62.2%(2005年)、63.5%(2010年)、66.7%(2015年)と少しずつ上昇していることがわかる。一方、日本における国語、即ち日本語に対して「美しい」イメージを持っているか尋ねたところ、「そう

13) 日本の調査では、国語に関する分野が提示され、そこから関心のある分野を3つ選択する方式だった。

思う」(「非常にそう思う」と「そう思う」の合計)と回答した人は、84.8%(2000年)、87.7%(2017年)には、90.8%(2018年)と約20年間にわたって大多数の人が日本語に対して「美しい」というイメージを抱いていた。

では、韓国人及び日本人は自分たちの言葉の中で何を美しいと感じているのだろうか。表6は「美しい韓国語」の要素について尋ねた結果を表したものである。

〈表6〉「美しい韓国語」の要素

	2005	2010	2015
외래어나 한자어가 아닌 우리 고유의 말 (外国語や漢字語ではない固有語)	35.0%	34.9%	33.1%
높임말이 적절히 사용된 말 (敬語が適切に使われた言葉)	28.2%	19.1%	23.3%
표준 발음과 어법에 맞는 말 (標準発音と語法に合った言葉)	25.2%	26.7%	25.0%
지역의 정서가 드러나는 말 (地方の情緒がこもった言葉)	11.4%	19.2%	18.6%
기타 (その他)	0.2%	0.1%	0.1%

2015年の調査で最も回答が多かったのは「外国語や漢字語ではない固有語」で、次いで「敬語が適切に使われた言葉」が続いた。過去の調査と比較すると、2005年は28.2%で2位、2010年は19.1%で4位、2015年は23.3%で3位だった。一方、「『美しい日本語』の要素」については表7のとおりである¹⁴⁾。

〈表7〉「美しい日本語」の要素

	2000	2017	2018
思いやりのある言葉	64.7%	62.5%	63.3%
挨拶の言葉	43.9%	47.4%	45.3%
季節の移り変わりを表す言葉	実施されず		34.5%
控え目で謙遜な言葉	28.8%	40.0%	34.3%
短歌、俳句などの言葉	28.5%	28.6%	25.1%
素朴ながら話し手の人柄がにじみ出た言葉	31.3%	30.7%	22.0%
アナウンサーや俳優などの語り方	26.4%	16.8%	17.0%
故郷の言葉	17.6%	19.8%	14.6%
童謡・文部科学省の歌詞	11.6%	11.1%	7.1%
漢詩・漢文などの引き締まった表現	7.2%	7.9%	5.4%
大和言葉を使った表現	実施されず		4.9%

同一の選択肢ではなかったが、この中で「敬語」の要素に最も近い項目と考えられるも

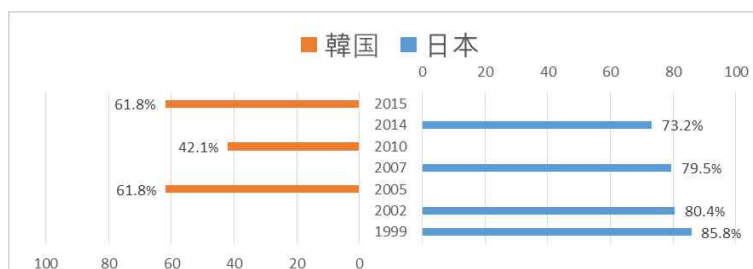
14) 日本の調査では、国語に関する分野が提示され、そこから関心のある分野を3つ選択する方式だった。

のは、「思いやりのある言葉」あるいは「控え目で謙遜な言葉」である。「思いやりのある言葉」は、64.7%(2000年)、62.5%(2017年)、63.3%(2018年)でいずれも1位であった。また、「控え目で謙遜な言葉」については、28.8%(2000年)で4位、40.0%(2017年)で3位、34.3%(2018年)で4位となっており、依然として上位に位置していた。なお、2018年の調査において、日本語の固有語である「『大和言葉』を使った表現」を選んだ人はごく僅かだったのは、韓国の調査結果とは対照的であった。

以上より、日韓両国では自分たちが使う言語のことを「美しい」と評価する割合が高く、特に日本では90%を超え非常に高かった。その判断基準として敬語、あるいは敬語が持つ特性が影響を与えていると言える。

4.2.3. 「正しい言葉遣い」と敬語との関係

図3は、「『国語』が気になるか¹⁵⁾」について尋ねた結果を年別に比較したものである。



〈図3〉「国語」が気になるか

韓国の調査結果を見ると、「そう思う」(「非常にそう思う」と「そう思う」の合計)と回答した人は61.8%(2005年)、42.1%(2010年)、61.8%(2015年)となった。一方、日本の結果を見ると、「そう思う」(「非常にそう思う」と「そう思う」の合計)と回答した人は85.8%(1999年)、80.4%(2002年)、79.5%(2015年)、73.2%(2014年)となり、少しずつ減少してきているのがわかる。ただし、日韓両国で比較した場合、いずれも日本の方が「『国語』が気になる」と感じる人が多かった。

では、韓国人及び日本人はどのような点で「国語」が乱れていると感じているのだろうか。まず、表8は、「どのような点で正しく使えていないと思うか」について韓国の調査結果をまとめたものである。

15) 韓国の調査では「국어를 바르게 사용하지 못하는 모습(国語を正しく使えていない様子)」で、日本の調査では「国語の乱れ」を対象にしている。

〈表8〉 「どのような点で正しく使えていないと思うか」(韓国)

	2005	2010	2015
말할 때 내용 연결 미흡 (話す時、話の内容のつじつまが合わない)	25.1%	40.0%	23.4%
맞춤법과 띄어쓰기 부정확 (正書法と分かち書きが不適切)	5.8%	5.2%	20.7%
부정확한 발음이나 억양 (不正確な発音や抑揚)	5.2%	9.0%	16.7%
말하거나 글로 쓸 때 높임말 사용이 부적절 (話す時や書く時の不適切な敬語使用)	4.1%	7.3%	13.8%
말하거나 글로 쓸 때 단어 상용이 제한적 (話す時や書く時の決まりきった単語使用)	17.4%	22.4%	13.1%
글로 쓸 때 내용 연결 미흡 (書く時、話の内容のつじつまが合わない)	13.7%	16.0%	11.4%
기타 (その他)	28.7%	0.1%	0.8%

過去3回の調査では「話す時、話の内容のつじつまが合わない」を選択した解答者がもっと多かった。中でも、「敬語」に注目すると、2005年では4.1%であり全項目の中で最も低かった。2010年では7.3%で若干増加しており、2015年の調査では13.8%まで増加しており、上昇傾向にあることがわかる。

一方、日本の「どのような点が乱れていると思うか」についての結果は、表9のとおりである。

〈表9〉 「どのような点が乱れていると思うか」(日本)

	2002	2008
敬語の使い方	56.0%	67.1%
若者言葉	53.3%	60.4%
あいさつ言葉	30.5%	38.9%
新語・流行語の多用	19.6%	36.4%
発音やアクセント	27.6%	25.2%
外来語・外国語の多用	5.5%	16.7%

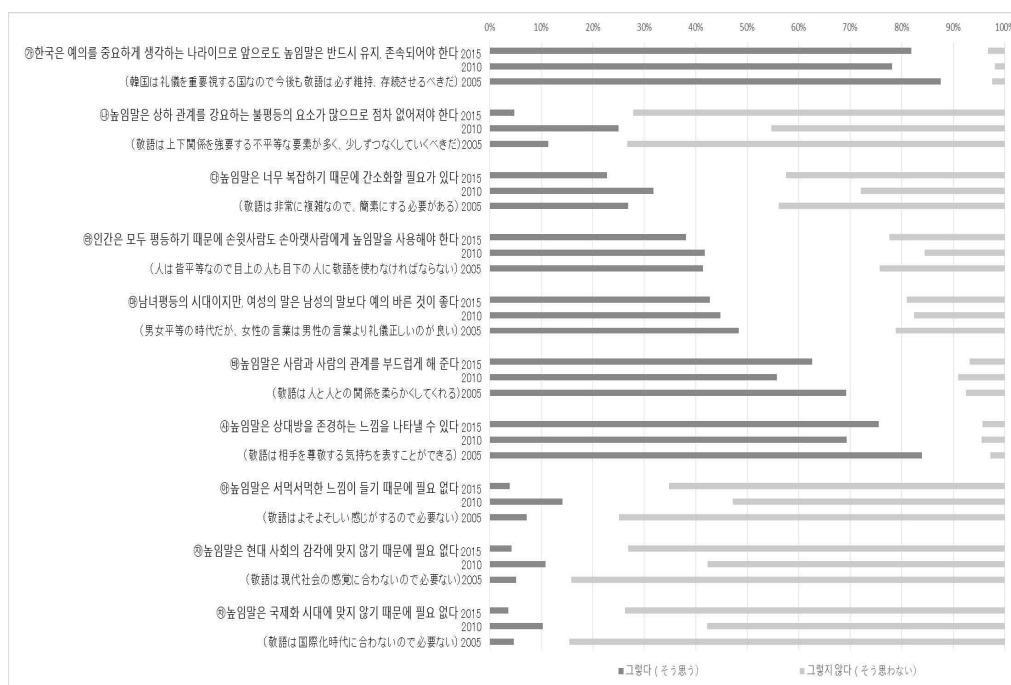
2002年は56.0%、2008年は67.1%であり、両調査において過半数を超え最も高かった。このことから、日本語において敬語が最も「乱れ」を感じさせる要因であることがわかる。

以上より、日韓両国において正しい言葉遣いかどうかという観点からは、韓国よりも日本の方が敏感であると言えるが、日本は年々「国語の乱れ」に対する意識が減少しているという特徴も見られる。ただし、韓国の「正しくない点」、日本の「国語の乱れ」の具体的な例については、日韓両国では調査実施年及び選択肢の内容が違うので一概に比較す

ることはできないが、韓国においては敬語に関する選択肢を選ぶ回答者は年々増加傾向にあり、日本においては、「敬語の使い方」が「日本語の乱れ」の大きな要因として認識されていると言える。

4.2.4. その他の設問に関する考察

4.1.の表3において取り上げた設問について、図4は、韓国の「国民の言語意識調査」における『Ⅱ.言語使用』の『敬語』の中の「敬語使用に対する各意見についてどう思うか」の過去3回の調査結果を一覧にしたものである¹⁶⁾。



〈図4〉 「敬語使用に対する各意見についてどう思うか」

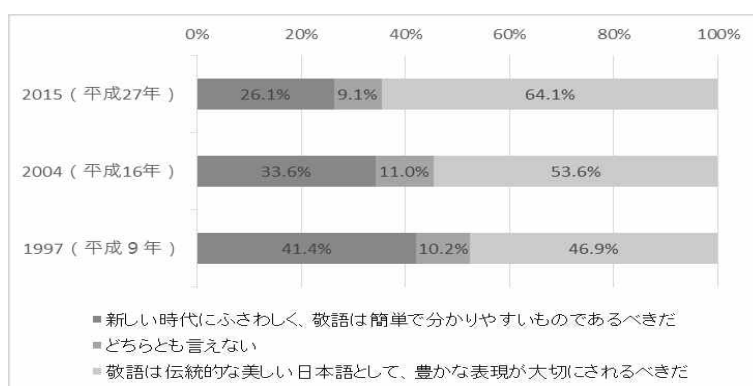
まず、박지수(2016:52)では、各質問について、「敬語の一般化された概念」と「そうであってほしいと望む個人の直感的な敬語意識」、「やや主観的な判断による敬語意

16) この調査は②から⑪までの10項目について、「매우 그렇다(とてもそう思う)」、「대체로 그렇다(だいたいそう思う)」、「보통이다(普通だ)」、「별로 그렇지 않다(あまりそう思わない)」、「전혀 그렇지 않다(まったくそう思わない)」の5つの選択肢から1つを選ぶという設問である。本稿では、「매우 그렇다(とてもそう思う)」、「대체로 그렇다(だいたいそう思う)」を「그렇다(そう思う)」とし、「별로 그렇지 않다(あまりそう思わない)」、「전혀 그렇지 않다(まったくそう思わない)」を「그렇지 않다(そう思わない)」とし、「보통이다(普通だ)」は省略している。

識」という観点から分析していた。本稿もそれに従って分析すると、2005年は「敬語の一般化された概念」と「そうであってほしいと望む個人の直感的な敬語意識」である㉔、㉕、㉖の質問において「그렇다(そう思う)」と回答した人の割合が高かったが、2010年の調査では減少していた。一方、「やや主観的な判断による敬語意識」である㉗、㉘、㉙、㉚、㉛は、2005年に比べ若干の増加がみられた。2015年には㉔、㉕、㉖は2010年の調査と比較すると再度増加しており、㉗、㉘、㉙、㉚、㉛は2010年に上昇したが再度大幅に低下していることがわかる。

過去3回分の調査を基に分析すると、㉔、㉕、㉖の結果より、敬語は時代が変わっても必要だという意見が非常に多いことがわかる。また、㉗、㉘の結果より、敬語は上下関係を表す言葉遣いであると認識している一方で、敬語は目上の人だけではなく、目下の人にも使うべきだという意見もある。さらに、㉙、㉚の結果より、敬語は人間関係を構築するのに有効であるとの肯定的な評価を受けていた。ただし、敬語使用の性差に関しては、㉕の結果より、男性よりも女性に敬語をはじめとする丁寧な言葉遣いを求めている。敬語の体系について㉖の結果より、敬語は複雑で難いため、簡素化してほしいという意見も見られた。

次に、日本の「国語に関する世論調査」について、5つの設問について分析する。図5は、過去3回実施された「敬語はどうあるべきか」という設問の集計結果を表したものである。

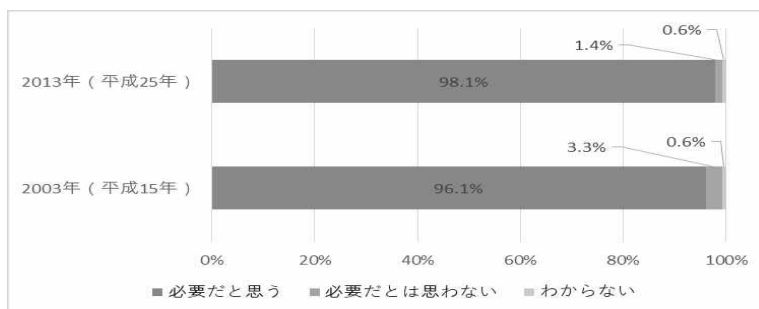


〈図5〉「敬語はどうあるべきか」

この設問は1997年、2004年、2015年の計3回実施されているが、「新しい時代にふさわしく、敬語は簡単で分かりやすいものであるべきだ」は41.4%(1997年)、33.6%(2004年)、26.1%(2015)で減少している。一方で、「敬語は伝統的な美しい日本語として、豊

かな表現が大切にされるべきだ」は46.9%(1997年)、53.6%(2004年)、64.1%(2015年)で増加している。1997年と2015年を比較すると、「敬語は伝統的な美しい日本語として、豊かな表現が大切にされるべきだ」という意見が過半数を超えていた。

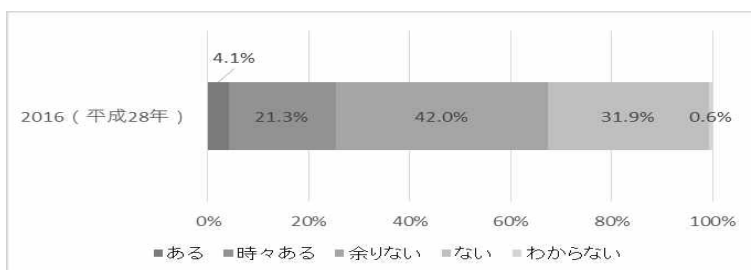
図6は、過去2回実施された「今後とも敬語は必要だと思うか」という設問の集計結果を表したものである。



〈図6〉 「今後とも敬語は必要だと思うか」

この設問は2003年及び2013年に実施された設問だが、「必要だと思う¹⁷⁾」は96.1%(2003年)、98.1%(2013年)でいずれもほとんどの回答者が今後も敬語が必要であると認識していることがわかる。

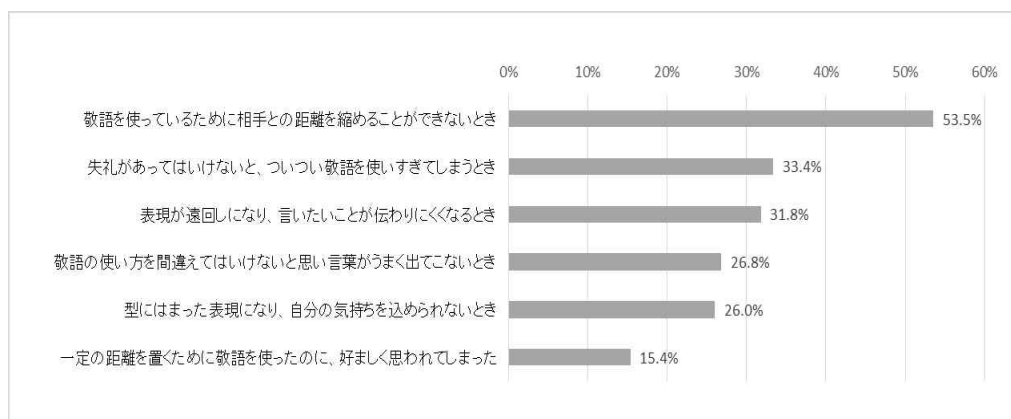
続いて、人間関係と敬語に関して2016年に一度だけ実施された設問だが、図7は「敬語を使うことが、人間関係を作っていくのに、かえってマイナスになると感じることもあるか」という設問の集計結果を表したものである。



〈図7〉 「敬語を使うことが、人間関係を作っていくのに、
かえってマイナスになると感じることもあるか」

17) 「必要だと思う」と「ある程度必要だと思う」を合わせて「必要だと思う」として集計した。また、「必要だとは思わない」は、「必要だと思わない」と「余り必要だとは思わない」を合計した割合を表している。

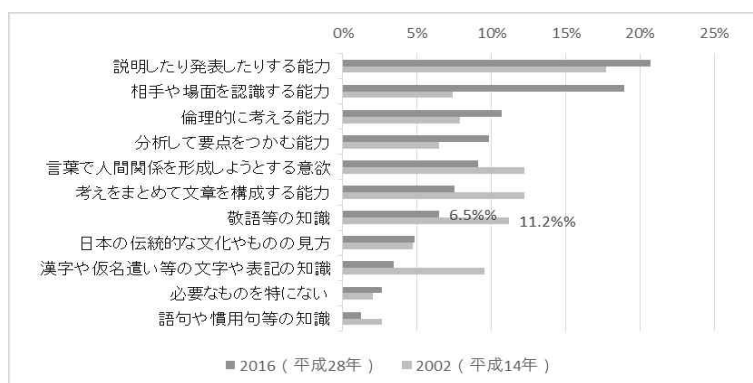
「ある」または「時々ある」の合計は25.4%で、「ない」または「余りない」は73.9%だった。さらに、敬語を使うことが、人間関係を作っていくのに、マイナスと感じることが「ある」または「時々ある」と回答した人に、それはどのようなときか尋ねた。図8はその結果を表したものである。



〈図8〉「敬語を使うことが、人間関係を作っていくのに、マイナスと感じるのはどのようなときか」

「敬語を使っているために、相手との距離を縮めることができないとき」が53.5%で最も高く、次に「失礼があってはいけないと、ついつい敬語を使いすぎてしまうとき」が33.4%、「表現が遠回しになり、言いたいことが伝わりにくくなる時」が31.8%と続いた。

最後に、社会生活を送って上で、どのような言葉にかかわる知識や能力などがこれからの時代、特に必要であると思うかを尋ねた。図9は、「これからの時代、特に必要だと思う言葉にかかわる知識や能力は何か」という設問の集計結果を表したものである。



〈図9〉「これからの時代、特に必要だと思う言葉にかかわる知識や能力は何か」

2016年の調査に注目すると、「説明したり発表したりする能力」が20.7%と最も高く、次いで「相手や場面を認識する能力」(18.9%)、「倫理的に考える能力」(10.7%)と続いた。2002年の調査結果と比較すると、「相手や場面を認識する能力」の増加率が最も大きく、「説明したり発表したりする能力」及び「倫理的に考える能力」も増加している。一方で、減少しているものもあり、最も減少幅が大きいのは「漢字や仮名遣い等の文字や表記の知識」で、「敬語等の知識」も約5ポイントの減少が見られた。

以上より、個別の設問比較によってわかる韓国と日本の敬語に分析結果をまとめると次のような傾向があるといえる。

一つ目、今後の敬語のあり方について、韓国では図4の「㉔韓国は礼儀を重要視する国なので今後も敬語は必ず維持、存続させるべきだ」という設問に対して「そうだ」という回答が80%を超えており、日本でも図5の「敬語は伝統的な美しい日本語として、豊かな表現が大切にされるべきだ」は60%を超え年々増加している。また、図6の「今後とも敬語は必要だと思うか」という設問に対して、「必要だと思う」という回答が95%を超えていた。つまり、日韓両国において伝統的に用いられてきた敬語は、今後とも必要であるという意見に多くの人が同意していることを意味する。

二つ目、人間関係を構築する際の敬語の効果について、韓国では図4の「㉕敬語は人と人との関係をやわらかくしてくれる」という設問に対して「そうだ」という回答が60%を超えていた。また、「㉖敬語は上下関係を強要する不平等な要素が多く、少しずつなくしていくべきだ」及び「㉗敬語はよそよそしい感じがするので必要ない」という設問に対して「そうだ」という回答は10%未満であったことから、人間関係の構築に敬語が有効であるとの肯定的な評価を受けていた。一方で、日本は図7の「敬語を使うことが、人間関係を作っていくのに、かえってマイナスになると感じることもあるか」という質問に対して、「ある」または「時々ある」の回答は約25%であった。その理由として、図8より「敬語を使っているために、相手との距離を縮めることができないとき」が50%を超えていた。このことから、日本では、敬語が人間関係を親密にするという効果以外にも、相手との距離を保つ作用も意識されていると言える。

三つ目、敬語の文法体系及び知識に関して、韓国では図4の「㉘敬語は非常に複雑なので、簡素にする必要がある」という設問に対して「そうだ」という回答が約20%あった。以前の調査結果と比較すると全体的に低下傾向にあるとはいえ、韓国では、敬語が難しいという意識が根強く残っていた。一方、日本では、図9の「これからの時代、特に必要だと思う言葉にかかわる知識や能力は何か」の結果より、敬語の知識の重要性は以前に

比べて相対的に低下していた。図8の結果を加味して考えると、敬語の知識というよりは敬語の用法に対して難しさを感じていると言える。

5. おわりに

本稿では、日本語、韓国語において非常に発達しているといわれる敬語について、日韓両国の敬語に対する社会的な認識にどのような違いがあるかを明らかにするために、日本の「国語に関する世論調査」と韓国の「国民の言語意識調査」の6つの設問の結果を比較し、①国語に対する関心度、②言葉の美しさ、③正しい言葉遣いの3つの観点から敬語との関係性を考察した。加えて、その他の敬語に関する設問についても総合的に考察を行い、日本と韓国における敬語に対するイメージを比較した。

本稿は、日韓両国において最大の国語に関する世論調査を比較したということに意義がある。ただし、これらの調査は単独に実施することを前提に作成されたものであるため、調査内容及び結果を比較するには限界がある。

今後も日韓両国において国語に関する世論調査が実施されると予想される。引き続き、日韓両国の国語に関する世論調査のデータを蓄積し、敬語に対する社会的認識がどのように変化しているのかについて明らかにしていきたい。

【参考文献】

- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵・清ルミ・内海美也子(2006)『敬語表現教育の方法』、大修館書店、pp.1-196.
- 韓美卿・梅田博之(2009)『韓国語の敬語入門-テレビドラマで学ぶ日韓の敬語比較-』、大修館書店、pp.1-239.
- 洪珉杓(2006)「日韓両国人の言語行動の違い(8)敬語意識の日韓比較」『日本語学』第25巻、明治書院、pp.78-89.
- 滝浦真人(2017)「敬語の対象研究への新視点-二つのアプローチと二つの敬語」『日本語学』第36巻、明治書院、pp.52-62.
- 洞沢伸(2011)「若者たちが使用する『ほかし言葉』”～かな、みたいな”と”～って感じ”の語用論的機能」『岐阜大学地域科学部研究報告』28号、岐阜大学地域科学部、pp.41-49.
- 中村朱美(2015)「外国人留学生の言語意識についての現状調査 (2) 平成24年度国語に関する世論調査に連動して」『金沢星稜大学人間科学研究』8号、金沢青陵大学人間科学会、pp.67-71.

- 原田幸一(2013)「大学生の日常会話における形容詞の語幹終止用法」『言語社会』7、一橋大学大学院言語社会研究科、pp.341-327.
- 野間秀樹編(2012)『韓国語教育論講座』第2巻、くろしお出版、pp.521-570.
- 文化審議会答申(2007)「敬語の指針」、文化庁、pp.1-77.
- 油谷幸利(2006)『日韓対照言語学入門』、白帝社、pp.1-232.
- 李翊燮・李相億・蔡琬(2004)『韓国語概説』、大修館書店、pp.1-345.
- 국립국어원(2011)「표준 언어 예절」, 국립국어원, pp.1-254.
- _____ (2005)「2005년 국민의 언어 의식 조사」, 국립국어원, pp.1-204.
- _____ (2010)「2010년 국민의 언어 의식 조사」, 국립국어원, pp.1-234.
- _____ (2015)「2015년 국민의 언어 의식 조사」, 국립국어원, pp.1-223.
- 민형식(2002)「국어 사용 실태 조사 방법론 연구」『사회언어학』제10권 제1호, pp.73-112.
- 박지수(2016)「국어 의식 조사 분석과 정책에 대한 연구-국립국어원의 ‘국민의 언어 의식 조사’를 중심으로」, 경북대학교 대학원 석사논문, pp.1-108.
- 어수정(2018)「『国語に関する世論調査』の設問内容とその分布」『일본어문학』제83호, 일본어 문학회, pp.181-200. (DOI : 10.21792/trijpn.2018..83.009)
- 홍민표(2002)「한국인과 일본인의 경어의식에 한 사회언어학 연구」『일어일문학연구』제41집, 한국일어일문학회, pp.193-211.
- 홍민표(2004)「일본 사회언어학의 개관」『(주요 국가의)사회언어학 연구 동향』, 국립국어원, pp.116-154.
- 文化庁「『国語に関する世論調査』の結果について」(平成7年～平成30年) <https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/index.html> (검색일 : 2020.03.10.)

논문 투고 일자 : 2020. 03. 30.

논문 심사 일자 : 2020. 04. 24.

게재 확정 일자 : 2020. 04. 24.

 <要旨>

 国語に関する世論調査の日韓比較
 —敬語に対するイメージに注目して—

梶原雄

本稿では、日韓両国において敬語に対する社会的な認識にどのような相違点があるか明らかにするために、日本の「国語に関する世論調査」と韓国の「国民の言語意識調査」の結果をもとに、日韓両国の敬語に対するイメージを比較した。

その結果、①「『国語』に対する関心度」については、日韓両国において敬語への関心が国語全体への関心度向上に寄与していた。②「言葉の美しさ」についても同様に、敬語が国語を美しいと感じさせる要因となっていた。③「正しい言葉遣い」については、日本の方が敬語の間違いを「言葉の乱れ」と関連させる傾向が強かった。

その他にも、敬語に関連する設問を比較し、考察した結果、「今後の敬語のあり方」や「人間関係構築における敬語の役割」、「敬語の文法体系や知識に対する認識」について日韓両国の傾向が明らかになった。

 A Comparative Study of "Public Opinion Poll on Japanese Language" and
 "People's sense of Korean Language"
 —Focusing on the Image of Honorifics—

Yu, KAJIWARA

This paper compares the impressions towards honorifics in both Japan and Korea to clarify the differences in social perceptions of honorifics, based on the results of the "Public Opinion Poll on the Japanese Language" in Japan and the "People's sense of Language" in Korea.

As a result, concerning the "degree of interest in the 'national language,'" interest in honorifics in Japan and South Korea contributed to an increased degree of interest in the national language as a whole. Similarly, concerning the "elegance of words," honorifics were a factor in Japanese being perceived as elegant. Regarding "appropriate word use," there was a strong likelihood for Japanese people to associate misidentification of honorifics with "undisciplined word use."

Also, the questions related to honorifics were compared. As a result of the analysis, tendencies in Japan and Korea regarding "the course of honorifics in the future," "the role of honorifics in building human relationships", and "recognition of grammatical structure and knowledge of honorifics" became clarified.